

令和3年度補正予算成立

今年もあと僅かとなりました。昨年の今頃は、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念され、自粛生活が強く求められる中で年の瀬を迎えました。今年は、感染症の第5波も収まり、コロナ前ほどではないものの、今のところはクリスマスや年末商戦の賑わいや慌ただしさを取り戻しています。しかしながら、先月末に南アフリカで報告され新たな変異株「オミクロン株」の感染拡大が気になるところです。

世界保健機関（WHO）によると、オミクロン株は世界の89ヶ国、地域に感染が拡大し、南アフリカでは既にデルタ株からオミクロン株に置き換わり、欧米諸国でもオミクロン株の市中感染が加速していると警鐘を鳴らしています。日本においても65人のオミクロン株感染者が報告され、海外から帰国した感染者の濃厚接触者の感染も報告されています。

さて、20日の参議院本会議において、一般歳出総額が約36兆円となる令和3年度補正予算が可決、成立しました。

12月6日に召集された第207回臨時国会は、補正予算案を議題に、岸田内閣発足後初めてとなる予算委員会が衆参両院にて開かれました。参議院予算委員会は、16日、17日の2日間に渡って行われ、私は自民党のトップバターとして質問に立ちました。

質疑の様子はNHKで生中継されましたので、ご視聴いただいた方もおられるのではと思いますが、先ず、高校3年生以下の子供たちへの10万円相当の給付を例に挙げて、貧困者対策へ取り組む総理の決意を伺いました。

次に、新型コロナウイルス感染症が収まりをみせている現在の状況について、政府として、どのような評価をしているかを確認しました。また、オミクロン株に対する水際対策の徹底状況、オミクロン株の特性や現行ワクチンの効果等への認識を尋ねました。

この他、新型コロナウイルスワクチンの3回目ブースター接種について、接種時期の前倒しやファイザー社製とモデルナ社製の2社のワクチンの使い分け等、接種の進め方。11歳未満の子どもに対する接種への考え方。経口治療薬の早期実用化への取組について、政府の考えを質しました。

海外企業に後れを取る、ワクチン、経口治療薬等の国内開発については、法制度も含めた緊急時の対応の必要性、及び大学院博士課程研究者の支援等の若手創薬研究者の育成等の必要性を訴えました。また、薬剤師の不足する沖縄県について、県内に薬学部を新設することへの政府の支援を要請しました。

政府は、先月「次の感染拡大に向けた安心確保のための取組の全体像」を公表し、最悪の事態を想定した、次の感染拡大に備えた対策を示し、さらに「コ

「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」を取りまとめ、医療提供体制については、既に計画通りの整備、拡充を進めました。今般の補正予算の成立を受け、更なる対策の速やかな実施をお願いしたいと思います。

今年一年、皆様方の温かいご支援に感謝申し上げます。来年もよろしく願い申し上げます。